

タイトル: Web 技術を活用した携帯電話利用型情報収集・配信技術の開発

本年度(～2016年3月末)は、携帯電話利用型次世代ITS用Webプラットフォームの構築に向け、昨年度開発した自動車用WRT(Web Runtime)をベースに、歩行者事故低減を目的に、車両走行情報項目の追加と歩行者情報収集機能の開発を行った。さらに実社会への円滑な導入を図るため、プライバシー保護基本システムの開発も行った。

今回の発表では、Web APIによる情報収集システムとプライバシー保護システムの開発概要を報告する。

(研究開発の背景)

交通事故を防止するためには、危険予知と危険回避が重要であり、特に歩行者との接触事故を減らすには、歩車間において危険な状況にあることを運転者へ適切なタイミングで通知できれば、運転者が迂回するなど危険を回避したり、注意しながら走行したりと予防的措置が講じることが可能となる。

このような危険な状況を予測するには、通行人の混雑状況、通行人に対する運転者からの視認性、気象条件・路面状態、運転状況や過去の急ブレーキ発生状況など多種多様な情報が必要となる。また、これらの情報は、特定の時刻と場所に対するものであり、情報を配信する対象となる車や人、そして配信のタイミングについても考慮が必要である。

これらに必要な基本技術は、歩行者の事故防止だけではなく、故障車や道路工事等の障害物との接触・衝突事故の防止への適用も期待できる。

(本研究開発の優位性)

こうした情報を全ての道路・車両から収集し、車や人に適切に通知するという事を考えると、広く一般に普及しているスマートフォンを利用して、走行車両の情報を収集・分析し、情報提供することが、有効かつ現実的な方法である。

さらに、車からの情報収集に、現在、W3Cで検討されている自動車用Web APIを利用すれば、車種やスマートフォンの機種、OSの違いに依らず取り扱え、上述の情報収集における早期展開・普及が期待できる。

以上の観点から、携帯電話ネットワークを利用したITS用Webプラットフォームを構築し、社会実装することを基本コンセプトとして、次世代ITSの情報収集・配信技術についての開発・実証を、2017年3月まで実施する計画である。

※1 1枚に収まる分量を目安にいただければ幸いです。